

日本における韓国語教育の再検討－文化的側面からの アプローチ

染谷智幸¹・鄭敬珍²・橋本真由美³

目次

- 1) 全体論（概論） 韓国語教育に文化的側面からのアプローチがなぜ必要か 染谷智幸
- 2) 個別論① 日本における韓国語教育の黎明－雨森芳洲の活動とその文化意識
染谷智幸
- 3) 個別論② 教養・第二外国語としての韓国語授業における文化教育 鄭敬珍
- 4) 個別論③ 現行の韓国語教材分析から見えてくるもの 橋本真由美

1) 韓国語教育に文化的側面からのアプローチがなぜ必要か（染谷智幸）

今から三十年近く前のことになるが、茨城キリスト教大学の学生をアメリカ合衆国のオクラホマとニューヨークに引率することがあった。英会話の勉強のためにと、書店に行ってテキスト類を物色した折に、清泉女子大の大杉正明教授（現名誉教授）執筆の“Hopes, Love and Dreams in NY⁴”というものがあった。NHKラジオ英会話の教材であった。

内容は、物語仕立てで、アメリカはニューヨークに住む主人公の男子高校生と、周囲の人々とのやり取りから、様々な問題が浮かび上がってくるというものであった。英会話のための教材で、様々な会話が展開され、そこから英会話の基礎や応用を学ぶことが出来るのだが、その内容がとても面白く、アメリカ、そしてニューヨークが抱えている問題、たとえば移民問題、人種問題、恋愛、NY現代美術館の紹介など、当時の（当然、今も続いているが）社会問題や風俗、観光と様々な話題が盛り込まれていた。

そこで展開される会話も有用で面白いのだが、それ以上に、その会話を取り上げる題材が面白く、その内容に引き込まれた。まるでニューヨークに旅をして、当地の方々から話を聞くような臨場感があった。たとえば、主人公の男子高校生の父親はロシア人で、一家はロシアからの移民、ロシア料理の店を開いて生計を立てている。その従業員はニューヨークに住むアメリカ人だが、店主の父親とのトラブルが絶えない。父親と従業員の会話の展開に、読者は気を揉ませられる。また、主人公のガールフレンドはアフリカ系アメリ

1 茨城キリスト教大学、文学部、文化交流学科教授

2 茨城キリスト教大学、文学部、文化交流学科講師

3 金上保育園保育士（茨城キリスト教大学・文学部・文化交流学科卒業、韓国明知大学校大学院・修士課程修了）

4 https://www.amazon.co.jp/s?k=Hopes%2CLove+and+Dreams+in+NY&ref=nb_sb_noss_1

カ人で、彼女からアフリカ系アメリカ人の抱える様々な問題が語られ、読者は人種問題に身につまされる、といった具合である。

また、吹替（声）は、声優か俳優と思うような方々（実際に声優・俳優の方たちであったかもしれない）で、その声は実にリアルで心地良いものであった。英語のレベルは初中級向けであったと思われたが、内容は、今も述べたように、決して読者を初級者扱いせず、当時のアメリカ合衆国が持っている社会問題をストレートに読者にぶつけてきていた。

その後、韓国語の勉強を始めた私は、この“Hopes, Love and Dreams in NY”が気に入っていたこともあり、韓国語学習のテキストでも同様なものがあるかと思い博搜したが、そうしたものは探し出せなかった。具体的な書名を上げることは避けるが、存在していたのは、会話が初中級であることに合わせるように、内容も「自己紹介」「ショッピング」「友人との旅行」といった旅行案内的なものであり、たとえ恋愛を取り上げるにしても、日本からの留学生が留学先の韓国人に仄かな恋心を抱くというような、現代の、間に合わせに作ったと思わしきTVドラマでも絶対に取り上げないような薄味の内容であった。むろん、言うまでもなく、私が探せなかったことが無いことにはならないが、全般的な傾向としては間違っていないと思われる。

ただ、日本における韓国語の教材には一定のバイアスがかかってしまうという、いささか厄介な事情がある。それは両国の歴史的背景である。これは隣国である故でもあるが、両国の文化、とくに歴史的なものに踏み込もうとする場合、そこには取り上げにくい問題が伏在していることが多い。慰安婦問題、独島・竹島問題といった過去に喧伝された問題でなくとも、韓国の家族には第二次世界大戦前の記憶を大切に留めているケースも多い。韓国文化を取り上げる時に、自然とそうしたものに測鉛をおろすことになるからだ。

よって、そうした難しい問題を避けるようにして、当たり障りのない話材に向かうのだが、それではそうした問題を多くの人間が認識しているゆえに、かえって本質から逃げるというか、隔靴搔痒の印象を読者に与えてしまい、興味を著しく削ぐという結果になる。

とすれば、勇気を出して果敢にそうした複雑な問題に踏み込んでゆくべきであろう。“Hopes, Love and Dreams in NY”における移民問題、人種問題もアメリカにとってはセンシティブな問題である。該書の臨場感は、そこに敢えて踏み込むという姿勢抜きには存在しないとも言えるのである。

では、韓国語教材における文化的な問題の注入はどのようにあるべきか。各論にて私見を提示してみたい。各論の概要は以下の通りである。

染谷智幸は、韓国語教育の歴史に踏み込み、江戸時代の儒学者・雨森芳洲が行った通事（通訳者）向けの教材開拓について述べ、芳洲の時代からすでに語学教育に文化をどう盛り込むかが課題となっていたことを指摘し、その芳洲の語学教育の在り方を検証する。

鄭敬珍は、小学校・中学校・高等学校・大学という語学教育の現場中、特に大学での韓国語教育がどのような教材を設定し、その中で文化の扱いをどう展開しているのかを検証する。

橋本真由美は、広く一般的な韓国語教材（市販、独学用・趣味用等）を閲しながら、現在最もホットなテーマ（例えば「押し活」「韓国ドラマ」「K-POP」）から韓国語教材の最

前線での様相を検証する。

2) 日本における韓国語教育の黎明－雨森芳洲の活動とその文化意識（染谷智幸）

雨森芳洲と朝鮮語

物事を本質的に考える上で、まずその歴史（ルーツ）を探ることは基本、基礎作業である。この日本における韓国語教育の問題も同様で、日本においてどのような韓国語（朝鮮語）教育が行われてきたのかをまず押さえておく必要がある。

とはいえ、単に歴史的に遡上し、韓国語（朝鮮語）教育のルーツを探る、これも意味のないことではないが、それが現在の韓国語（朝鮮語）教育に役立つとはあまり思えない。そのルーツや歴史をたどる中から、現代の教育に波及するような問題点を抽出する必要があるだろう。

そうした視点に立つとき、江戸時代中期の儒者（藩儒）で日朝交流に多大な功績を遺した雨森芳洲あめのもりほうしゅうは逸することのできない極めて重要な存在である。

芳洲（1668～1755）は年少時に医者を目指すも、十代後半で江戸に出て、高名な儒学者木下順庵の門下に入った。頭角を現す中で、順庵の推薦もあって、対馬藩の藩儒として対馬に渡る。主に朝鮮との交流に携わり、朝鮮通信使の随行、通訳などに従事した。そうした経験から、善隣友好（隣国との友好こそが外交の基本とする思想）を基に様々な職責を全うしつつ、多くの優れた著作を遺した。順庵門下には、新井白石や室九巢、祇園南海などの傑物が輩出した。そうした俊友に比べて芳洲はいささか地味な存在ではあったが、日韓の間に存在する様々な外交案件を考える時、彼の善隣友好思想は、現代から見ても極めて新鮮に見えるものである。

ちなみに、その芳洲思想の現代的意義と価値を、日本国内からでなく、韓国側から日本に提示されたことがあった。1990年、日本を訪れて国会で演説をした韓国の盧泰愚大統領（当時）が、その中で芳洲の優れた思想と事績に触れて日韓の友好を訴えたのだ。ところが、その場に居た日本の政治家のほとんどが芳洲を知らなかった。経済は一流、政治は三流と呼ばれる日本の政治状況ではあるが、いささかならず心寒いものを感じた関係者も多かったであろう。いずれにしても、この演説によって、芳洲関連の書籍が売れ、日本の多くの人たちが芳洲を知ることになった。

『淑香伝』をめぐって

その芳洲は、日本における朝鮮語教育に力を入れていた。ただし、この教育とは、一般的な朝鮮語教育でなく、通詞（通訳）養成のための語学教育である。問題は、そこでどのような教材が使われていたのかであるが、これについては様々な資料がある。その中でまず参考にすべきは、若木太一氏が紹介された⁵、大韓民国国史編纂委員会蔵『詞稽古之者

5 若木太一「雨森芳洲の語学書」『雅俗』雅俗の会編、p123-136、2002年1月

本文は「一、朝鮮言葉稽古之仕様、某方令指図候様ニと被仰付候。某義三十五歳之時、参判使都船主二而朝鮮へ初而罷渡、彼地之様子令見聞候処、重而信使有之候節朝鮮詞不存候而者、御用可難弁候と心付候付、罷歸候已後早速朝鮮言葉巧者之衆中二下稽古いたし、翌三十六歳之時、朝鮮日罷渡九年二年令逗留、交隣須知一冊、酉年工夫一冊・乙酉雜録五冊、常話録六冊・勸懲故事諺解三冊仕立、其外淑香伝二、李白瓊伝一冊自分二写之。毎日坂之下へ参り令稽古、雨天之節者守門軍官又ハ通事を呼相勤候」とある。

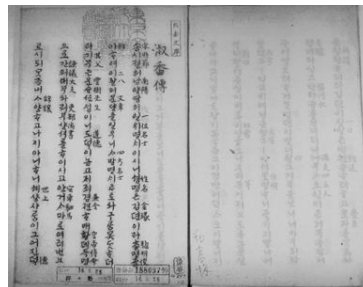
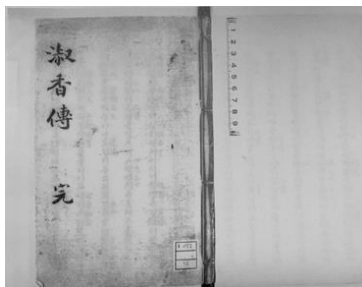
仕立記録』に載る「雨森東五郎分言築稽古之者共へ申渡候書付之覚」とい覚書であろう。

これによれば、芳洲は三十五歳の時に朝鮮に渡り半年ほどして帰国した。そして再度朝鮮渡航を命じられた場合、朝鮮語が出来なければその命に応えること叶わずと自覚し、さっそく朝鮮語の勉強をスタートさせた。そして三十六歳の時に再び渡航したが、その折に、朝鮮語の勉強のために、『交隣須知』『酉年工夫』『乙酉雜録』『常話録』『勸懲故事諺解』『淑香伝』『李白瑣伝』などを書写したと書かれている。後年、こうした写本類が対馬藩での通詞育成のためのテキストとして利用されるのであるが、この書名の中で注目してみたいのは『淑香伝』と『酉年工夫』である。

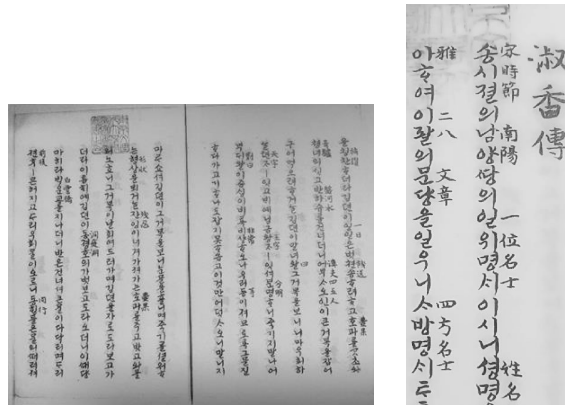
『淑香伝』は朝鮮時代の恋愛小説で、作者未詳、17世紀以前の成立である。物語の内容は、名家出身の金塚とその妻張氏の間に生まれた淑香が、数奇な運命をたどる物語である。この淑香は実は仙界の生まれで、人間世界に降下した身であったが、その仙界と人間界の間を行き来しながら物語は進んでゆく。そして最後には李仙という若者と結ばれ、幸せな一生を暮らした後、また仙界に戻ってゆくという話である。淑香は仙界に戻れば人間界の記憶が無くなり、人間界に降りれば仙界の記憶を失うという不思議な二層空間に生きる存在である。『淑香伝』はこの「覚」以外にも芳洲関連の資料に度々書名が上がる（芳洲書院所蔵『芳洲履歴』など）。芳洲が朝鮮語教材としてかなり気に入っていたと推測される。

芳洲が『淑香伝』の何を好んだのか判然としないが、『淑香伝』が比較的平易で日常的な語彙を使って物語叙述につとめていたことは、現在の資料からも分かる。それが第一の理由だろう。もう一つは、この物語が日本人にとって馴染のある物語、『竹取物語』に近い内容だったことが考えられる。『竹取物語』は竹取の翁のもとに仙界（月世界）から降下したかぐや姫が、五人の貴族や天皇の求愛を退けて月世界へ戻ってゆく物語である。その、かぐや姫が月に戻る際に、月の羽衣を着るのだが、それを着ると人間世界の記憶を全て失ってしまう。ここに読者は人間世界の儚さを感じ取るわけだが、これは淑香が仙界に戻る時に起きる現象と全く同じである。芳洲はこうした内容が、日本人に親しみやすさを感じさせると考えたのではないか。

この芳洲が書写し、後に教材となった『淑香伝』がどのように記述されていたのかは分からないが、日本の筑波大学に所蔵されている写本『淑香伝』がそれに近いものであったことが想像される⁶。



6 筑波大学図書館蔵、資料名：淑香伝、写本、請求記号：ル297 - 10、登録番号・188097



上掲の資料は、表紙、第一丁（表）、第一丁（裏）第二丁（表）、冒頭（拡大）である。拡大した冒頭部分を見れば分かるように、比較的易しいアレア・ハングル（古典のハングル）で記述されているが、分かりにくいと思われる箇所に、漢字を当てて理解が進むようになっている。この写本そのものが対馬藩で使われた教材であったかどうかは分からない⁷。おそらくその教材そのものの、教材の写しではなかったかと想像される。

『酉年工夫』と『林慶業伝』

もう一つ取り上げたいのは『酉年工夫』である。この本の作者・成立年代など未詳である。一応、『淑香伝』と同じく、17世紀以前と言っておきたい。興味深いのは、様々な内容を持つ51編中、26編が性的にかなり際どい話を含んでいることである。芳洲が、性的にかなり開放的な思想を持っていたことは、1979年、朝鮮通信使として来日していた申維翰^{シンユハン}への対応からも分かる。申が日本に来て、男色があまりに盛んなことを見聞して驚き、日本側の外交員であった芳洲に対して「貴国の風俗は甚だしく奇怪である」と言ったのに対して、芳洲は「貴殿はまだ男色の楽しみを知らないのですな」と答えたという記録が残っている。（申維翰「日本見聞雑録」『海游録』所収、東洋文庫・1974年より）

芳洲のそうした態度からみて、朝鮮で『酉年工夫』を书写するのは十分に分かる。とはいえ、それを朝鮮語の教材として使用するのには、一般的には躊躇われるものだろう。芳洲の発想には大胆かつ柔らかさがあったか。むしろ、芳洲の真情は分からないが、恐らくは、日本の通詞（男性）たちの興味を引くものの一つとして、こうしたものがあって良いと考えたのであろう。

もう一つ上げた『林慶業伝』^{インギョンオプジョン}は朝鮮の名将一代記である。十七世紀、満州族が明を討ち清を立てた後、朝鮮を降伏させたのは歴史のよく記すところである。その折に第一線で戦った将軍である。林は結局、清はもとより祖国である朝鮮にも裏切られ悲劇の死を遂げる。この物語にまつわる有名な逸話として、十八世紀、ソウルの鐘路^{チョンノ}でこの『林慶業伝』が語られた折、その結末に悲嘆した聴衆の一人が語り手を刀で刺し殺してしまったということ

7 序、跋文、後記、印章等、資料の出自を示すものはない。

があった。朝鮮という国が周辺の強国に挟まれ、いかに苦悩を重ねてきたのかを伝える物語と逸話である。

鄭炳説氏は「江戸時代、日本人が読んだ韓国小説」という論文で、芳洲が『林慶業伝』を朝鮮語のテキストに使用した理由として、芳洲が朝鮮の歴史と朝鮮の人たちの歴史認識を伝えるためでなかったかと指摘している⁸。日朝には壬辰倭乱（文禄慶長の役）があり、そこから生まれた物語もあったわけだが、それを日本で教材とするのは、政治問題化する恐れもあるとして憚られたのであろう。朝鮮の対中国・満州族認識を通して、朝鮮の対日本観を学んで欲しいという意識が芳洲にあったと推測されるのである。

こうしてみると、

- ・『淑香伝』 ➡ 分かりやすさ、親しみやすさ
- ・『酉年工夫』 ➡ 興味深さ
- ・『林慶業伝』 ➡ 歴史観、対外意識、問題認識

という三方向から教材が選ばれていることが分かる。これは、最初に取り上げた“Hopes, Love and Dreams in NY”に表れた内容と奇しくも一致する。この3点以外にも、まだ様々な有用な視点があるかも知れないが、この3つは外国語の教材を設定するための一つの指標には十分に成るだろう。

3) 教養・第二外国語としての韓国語授業における文化教育（鄭敬珍）

いわゆる「K-culture」の流行は大学教育現場においても大きな影響を与えている。年々、教養・第二外国語として韓国語を学ぼうとする学生が増えているのは、その証拠ともいえる。彼らの多くはK-popやドラマ、映画、食べ物など、さまざまな韓国文化に興味を抱き、韓国語を話すことで韓国をより身近に感じようとする明確な目標を持っている。一方で、大学で韓国語を学ぶことは、単なる言語習得にとどまらず、韓国文化への理解を深める貴重な機会でもある。言語と文化は切り離せないものであり、韓国語授業における文化教育の必要性についてはすでに議論されている⁹。それにもかかわらず、実際の授業の現場において韓国文化を十分に紹介し、教えることは容易ではない。その理由として、まず、教養・第二外国語としての韓国語の授業は言語学習が主となり、文化的背景や歴史について触れる時間の確保が難しいことが挙げられる。また、教材によって文化を取り上げる内容やその比重にばらつきがあることも問題といえる。しかし、大学での韓国語教育

8 鄭炳説「江戸時代、日本人が読んだ韓国小説」『韓国の古典小説』染谷智幸・鄭炳説編、ペリカン社、p102-111、2008年。なお鄭炳説氏はさらに、芳洲が教材として使ったと考えられる『崔忠伝』と『林慶業伝』を合わせ読むことによって、日本の江戸時代から明治以降に続く歴史認識の変化を読み取ろうとされていて興味深い。

9 韓国語学習における文化教育に関する主な先行研究をまとめると次の通りである。
 ガンヒョンジュ（강원주）「海外在住韓国語初級学習者を対象とした韓国文化教育方案の研究（해외 거주 한국어 초급 학습자 대상 한국 문화 교육 방안 연구）」、『이중언어학』(57), 이중언어학회, 2014年, 김윤만(김영만)「ハイブリッド的思考と韓国文化教育の方向性（하이브리드적 사고와 한국 문화 교육 방향）」、『겨레어문학』(42), 겨레어문학회, 2009年, 김윤준(김정은)「韓国語教育における言語文化教育（한국어 교육에서의 언어 문화 교육）」、『이중언어학』(26), 이중언어학회, 2004年, 최주열(최주열)「韓国文化教育への接近方法の研究（한국 문화 교육 접근 방법 연구）」、『언어와 문화』(4), 한국언어문화교육학회, 2008年, 박윤미(박영미)「韓国語文化教材の開発領域と文化教育モデルの開発（한국어 문화 교재의 개발 영역과 문화 교육 모형의 개발）」、『다문화와 평화』7 (2), 다문화평화연구소, 2013年, 최주열(최주열)「韓国文化教育への接近方法の研究（한국 문화 교육 접근 방법 연구）」、『언어와 문화』(4), 한국언어문화교육학회, 2008年。

はいぜんとして韓国文化への理解を深める貴重な機会である。ここからは初級レベルを中心に、大学の教育現場からみる文化教育の現状と課題について考えてみることにする。

文化教育が目指すもの

そもそも、文化とは何か。まず「文化」の定義をいくつか紹介すると、「自然に対して、学問・芸術・道徳・宗教など、人間の精神の働きによってつくり出され、人間生活を高めてゆく上の新しい価値を生み出してゆくもの。」(『日本国語大辞典』)や「人間の生活様式の全体。人類がみずから手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。」(『大辞泉』)などがある。また、文化をタイプ別に分類すると、精神文化と物質文化、大衆文化と高級文化、伝統文化と現代文化、無形文化と有形文化などに分けることができる。このような文化に関する普遍的な定義がなされる一方で、その具体的な様相は文化圏、国、地域によって異なる。そのため、特定の文化を正しく理解するためには、その国の言語を習得することは不可欠となる。そのような観点から考えると教養・第二外国語いずれにおいても韓国語を学ぶことは、「言語を通して文化を理解する」という重要な意味を持つのである。

パクヨンスン(박영순)は外国人を対象とする韓国語の授業で文化を教える際に、次のような目標を明確にする必要があると指摘している。

- ① 目標言語(韓国語)が属する文化のおおよその特徴を理解する。
- ② 母国文化(日本)と目標文化(韓国)の共通点と相違点を理解する。
- ③ 文化の側面から条件づけられた行動と言語表現について理解し、それに適した行動と言語的対応を適切にできる。
- ④ 母国の文化や言語について客観的な分析と評価ができ、他の言語や文化を比較・対照することができる。
- ⑤ 目標言語を話すとき、その言語が属する文化的慣習や価値観に基づいて適切に駆使することができる。
- ⑥ 学習者の母語文化と目標言語の文化との共通点と相違点を理解することで、両言語文化に対するより正確な理解と言語能力を向上させる¹⁰。

このような文化教育の目標は、自国文化と目標文化との対照や比較を通じて、学習者が両国の文化をより深く理解することで、状況に応じて正しく対処し、コミュニケーションの遂行能力を養うことに主眼を置いたものといえる。つまり、相互の文化理解に基づく外国語教育の推進が望まれるということである。

言語と文化教育の兼ね合い

言語と文化の密接な関係性は、教養・第二外国語として韓国語を学ぶ学生にとって、言葉の背後にある韓国の社会や歴史、価値観について理解する重要性を示している。例えば、挨拶の仕方や作法といった韓国特有の礼儀、呼び名の多さに反映された秩序を重んじ

10 パクヨンスン(박영순)『韓国文化論』, 韓国文化社, 2002年, pp.29-30. 引用文のうち()の部分は筆者による。

る価値観,そしてキムチをはじめとする韓国特有の食文化は、韓国語の表現にも多く影響を与えている。尊敬語や敬語の使い方も日本語と類似しているが、身内に対しても広く使われる尊敬語の範囲など韓国独自の文化が反映されている。言語を習得する過程でこれらの文化について学ぶことにより、学生は単に「言葉を話す」だけでなく、「言葉を理解する」力を養うことができる。また、韓国文化への理解は、言語学習のモチベーションを高め、学習意欲の維持にも貢献する場合がある。

しかし、先述のように、実際の教育現場において韓国語と結びつく韓国文化の特徴や歴史を深く掘り下げることは困難である。その要因としてまず、授業時間数やカリキュラムの制約が挙げられる。多くの大学では、教養・第二外国語としての韓国語の授業が週に一度か二度しか設けられておらず、決まったカリキュラムと限られた時間の中で言語と文化の両方を網羅することは難しい。そのため、文法や会話練習などの語学教育が優先され、文化に関しては表面的な紹介にとどまることが多い。その結果、学生は言語の基本的な理解は得られても、その背後にある文化を十分に理解するには至らない。もちろん、言語自体を文化の一部として捉えるならば、日本語(母国語)と韓国語(目標言語)の表現の違いを学ぶことも文化教育の一種とみなすことができよう。

そのような意味で、大学の韓国語授業における文化教育は、教え手が持つ文化の概念や文化をどこまで教えるかという教授範囲の設定に左右されるといえる。後述するように、授業で使用する教材がどのように文化的トピックを取り上げているのかも重要であるが、最終的には教材の選定には教え手の教育方針が反映される。そのため、教え手は定まった教材を用いる一方で、文化を意識した言語教育を行う必要がある。一例として、「안녕하세요 (こんにちは)」の挨拶を説明する際に、単に「日本語と違って、朝、昼、夜いずれも使える」で終わるのではなく、「안녕」の意味は「安寧」であり、「ご無事ですか?」「安泰していますか?」という相手の思う気持ちが込められていると説明することができる。また、韓国人が挨拶としてよく使うフレーズの「밥먹었어? (ごはん食べた?)」は、相手の健康を気遣う気持ちの表れであることを教えるのも、文化を意識した言語教育の一つの方法である。さらに、数字を教える際にも、単に「일 (1), 이 (2), 삼 (3)」を覚えさせるのではなく、自分の年齢を話すことで上下の秩序をはっきりさせ、相手に失礼がないようにしようとする韓国人の価値観や文化を理解させることもできよう。

一方で、教室内での教育にとどまらず、学生自らが韓国文化に触れられるように情報を提供するのも教え手の重要な役割である。YouTubeやSNSなどインターネットで容易に情報を入手できる時代だからこそ、韓国文化を正しく探求できる「質の高い」情報を選別し、提示することが求められる。このような授業外での体験型の文化学習は、教室での教育と補完し合い、学生自らが韓国文化への興味を一層深める一助となるだろう。教養・第二外国語としての韓国語授業における文化教育の両立問題は、単に文化学習の比重を増やすカリキュラムの編成によって解決できるものではなく、教え手がいかに文化を意識した言語教育を実施し、授業外活用にまで目を配るのかにかかっていると言っても過言ではない。

韓国語教材にみる文化教育

教養・第二外国語の韓国語授業における文化教育は、先述の教え手の方針に加え、教材

自体の方向性も大きな影響を与える。言語と文化教育がうまく成り立たない要因の一つに、教科書や教材の構成上の限界も指摘される¹¹。実際に、教材の中には言語学習に重きを置いて文化的な内容は表面的な説明にとどまることが多く、まったく文化関連の内容を収録しない場合もある。このような現象は同じ学習レベルの教材にも見られるが、その理由は何か。ここからは実際の例をもとに、近年の韓国語教材が文化をいかに捉えているのかについて考える。本稿で取り上げるのは7種類の初級レベルの教材で、そのうち、4種類は文化関連のコーナーを設けており（A）、残りの3種類は文化に触れるコーナーを別途設けないもの（B）である¹²。

まず、（A）の教材の文化コーナーがどのように構成されているのかを表にまとめると以下ようになる。

（表1）文化関連のコーナーの主な内容

教材名	はじめに（まえがき）の主な内容
『どんどん話そう！韓国語』（2022）	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 韓国の祝日（お正月、中秋節、釈迦誕生日、クリスマス） ▪ ソウルの観光地（絵入り地図、地下鉄路線図）
『四訂版・韓国語の世界へ入門編』（2024）	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 韓国の食べ物（ビビンバ、チヂミ、ブルゴギ、冷麺…）の紹介と食べ物にまつわる「豆知識」が追加 ▪ 【コラム】韓国のモバイル通信事情（天地人式の文字盤） ▪ 【コラム】韓国の軍隊 ▪ 【コラム】大学生生活ーMT
『改訂版 根と幹』（2022）	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 【ちょっと一言】コーナー 韓国の姓、キンパ（김밥）、学期末のコンパ（종강파티）、年齢の数え方（満と数え）、韓国のコーヒー文化、写真を撮るとき言葉・キムチ、11月11日は빼빼로데이、飛行機とKTX、韓国の大学の学期、敬語は重要、韓国の道路、電車と地下鉄、漫画、
『教養韓国語初級 改訂版』（2023）	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 【資料】日本人が見た韓国、こんなに面白い！ ▪ 【資料】韓国の祝祭日と干支

（表1）からもわかるように、文化関連のコーナーを設けている場合でも教材によって分量や内容にばらつきが見受けられる。『どんどん話そう！韓国語』の祝日と観光地のように、どの年代の学習者にも対応する内容が含まれている一方で、ほかの3冊は大学生や若い学習者を意識した内容となっている。なかでも「大学生生活ーMT」、「学期末のコンパ（종강파티）」、「韓国の大学の学期」などは、韓国特有の大学文化のため、教え手が実経験のない日本人の場合は十分な説明が難しいだろう。『教養韓国語初級 改訂版』の「日本人が見た韓国、こんなに面白い！」は、日本人が不思議に思う韓国文化のさまざまな例を挙げ、韓国文化を紹介する従来の方式と異なる試みである。とりわけ、『改訂版 根と幹』は、

11 日本で出版された韓国語教材の多くが発音および文教教育に重点が置かれており、文化教育を含む社会言語学的能力への考慮が十分ではないことはすでに指摘されている（全相律：洪妍定：申知元「日本人韓国語学習者を対象とした会話教材の開発について」、『グローバル・コミュニケーション研究』13号、神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所、2024年、p.140）

12 本稿では、7種の比較のため、いずれも同じ朝日出版社のものを選び、最新の動向を明らかにするために2022年以降、刊行されたものに限定した。なお、各教材の著者情報については参考文献リストを参照されたい。

すべての課に4行分量の【ちょっと一言】を1～2固挿入していることから、先述した言語と文化の両立した教育に向いている教材と考えられる。いずれの教材も、程度の差はあるものの、伝統文化よりも生活文化や日本文化との違いについて学ぶ構成となっているといえる。

次に、文化コーナーを設けない教材に『はばたけ! 韓国語ライト版1』(2022), 『チンチャ! チョアヘヨ!! 韓国語1』(2023), 『キムチ1 韓国語入門』(2022) などがある。これらの(B)の教材の内容をみると、いずれも韓国語の言語学習に重きを置いており、「読む・書く・聞く・話す」の4技能や実践的な表現、コミュニケーションに必要な知識の習得が重視されている。4冊とも主に「会話文、文法、語彙、練習問題」の構成になっているが、どの教材も(A)の教材より語彙が多いため、教え手が各課の語彙を用いて文化について話しやすいように構成されているといえる。すなわち、文化教育の実施有無やその範囲を教え手に委ねているのである。しかし、(B)の教材の方向性が言語学習に向いていることから、文化学習に先立ってまず言語を学ぶべきであり、言語と文化の教育を必ずしも同時に行う必要はないという一例としてみることができる。

言語と文化を一体として学ぶことの重要性は言うまでもない。ただ、それは上記の事例からも見て取れるように、両者を必ずしも同様の比重で教えなければならないということの意味しているのではないと筆者は考える。なぜなら、大学は学生の教養を深める場であるからだ。本稿で取り上げる教養・第二外国語としての大学韓国語授業において文化をどこまで教えるかは各大学や教え手の方針によって異なるが、それを同時に行う際の手助けとなるのが(A)のような教材郡であろう。一方で、(B)の教材のように韓国語の言語学習に主眼を置く場合は、別途教養としての韓国文化を総合的に取り上げる授業をカリキュラムに組み込む方法も考えられる。その一例として茨城キリスト教大学で筆者が担当している「東アジアの歴史と文化」(3, 4年生)という科目がある。本授業ではあえて韓国語の習得を含めず、歴史や社会女性、韓国人の価値観、文学、映画など、幅広い文化的トピックを取り入れた授業を実施することを目的としている。それをもとに、韓国社会や文化に関するディスカッションをはじめとする参加型学習を導入することで、学生の関心を引き、深い理解を促進している。

最後に、大げさかもしれないが、韓国語を学ぶことで、東アジア全体の文化や歴史に対する理解が広がるということも忘れてはならない。韓国と日本、そして中国との関係は長い歴史を持ち、その中で育まれてきた文化的交流や相違点を知することで、学生はより広い視野を持つことができる。そのような意味から、韓国語の学習は東アジアの共通文化圏への理解を深める一助となるのである。

4) 現行の韓国語教材分析から見てくるもの(橋本真由美)

現行の韓国語教材の傾向

ここでは現行の韓国語教材を出来るだけ広く観察し、それらが韓国文化をどのように消化し、読者に提示しているのかを見てゆく。

韓国語の学習者は2002年の日韓ワールドカップ、2004年の第1次韓流ブームをきっかけに韓国語を学ぶ学習者が増えてきている。韓流ブームは現在第4次韓流ブームまで迎えて

いるが、韓国語教育にとって、この日本で起こった韓流ブームは重要な社会的背景・インフラである。

韓流ブームを整理すると、

- ・ 第一次韓流ブーム：2003年～2004年の間に韓国ドラマである「冬のソナタ」などをきっかけに韓国ドラマファンが増える。
- ・ 第二次韓流ブーム：2009年～2010年にかけて韓国アイドルのKARAや少女時代などによりK-POPが人気を高める。
- ・ 第3次韓流ブーム：2016年～2018年にチーズダッカルビなどの韓国料理や韓国コスメ、またBTSやTWICEなどのアイドルも流行した。
- ・ 第4次韓流ブーム：2019年～2021年ではコロナ禍の中、家で過ごす人が多くなり、インターネットTVなどのメディアの利用も増え、韓国ドラマが気軽に観られるようになった。その影響から「梨泰院クラス」や「愛の不時着」など韓国ドラマを筆頭に人気を集めブームとなり、現在まで続いている。

となる。

韓国語の学習者の年齢層も広がり、中高年層から若年層へ、女性から男性へと幅広く学ぶ人達が増えてきているのがよくわかる。

市場に並ぶ韓国語の教材も時代の流れに沿って様々な種類の教材が並ぶようになってきている。一般的な日常会話、読み書き、文法などの教材はもちろん、韓国ドラマや映画、K-POP、アイドルや俳優の推し活などをテーマにした教材も多く目にするようになった。日常会話などのテキストの中の目録にも食事、旅行、病院と日常をテーマにしたシチュエーションに加え、近年では好きなアイドルについて話す、コンサートに行く、「推し」と会うなどをテーマにした韓国語の会話例も含まれている教材が増えてきている。

そこで、文化的な特徴と言っても、アップツーデイトなテーマである「推し活」、「韓国ドラマ」、「K-POP」、「日常会話」などをテーマにした教材を分析し、考察してみたい。一般的な文化というよりは、そうした現代的なテーマを対象にしている教材の方が、現教材の文化への関心の方向が、より良く分かると考えるからである。教材の選別は2000年から現在までに発行された教材から、韓国文化などを多く取り入れた教材を中心に選別した。それぞれの章で詳しく考察していく。

「推し活」をテーマにした教材

2019年に稲川右樹により行われた「SNSアンケートを利用した日本人韓国語学習者の実態調査」によると、「韓国語を始めたきっかけ」についてのアンケート結果は、「K-POPや韓流ドラマ」が77%と圧倒的な比率を占めている。また、無料学習アプリ「Duolingo」における韓国で活躍するK-POPアーティストやタレントに「推し」を持つ512人に対して行われたアンケートによると、韓国語を学び始めたきっかけは、「好きなアーティストや芸能人が話す言葉をそのまま理解したいから」という回答が57.6%で1位であり、半数以上を占めていることになる。

2021年には「推し活」という造語が作り出され、韓国アイドルや俳優、歌手などのファン対象とした教材もここ数年増えてきている。コロナ禍をきっかけにオンライン上で、コンサートライブが行われたり、InstagramやTikTokなどSNSを使ったりリアルタイムのライブ、またYouTubeなどのコンテンツも増えてきている。そのほとんどが韓国語である。字幕がほとんどついていますが、やはりファンとしては推しの母国語をそのまま理解したいという気持ちが大きいであろう。

そのような推しの言葉を理解したいというファンのための「推し活」をテーマにした教材をそれぞれ考察していく。

まず1冊目は、「推したい私の韓国語」¹³という教材である。登場人物が設定されており、実際起こり得るシチュエーションの韓国語の会話文がそれぞれの章に出てくる。チャプター1では推しについて知りたい！チャプター2では推しの気持ちを理解したい！チャプター3では推しに想いを伝えたい！チャプター4では推しについて話したい！と「推し活」をしている人にとってリアルに使える会話文を学習することができる。また、その会話についての文法、単語など分かりやすく説明されており、1章ごとに、「この会話から学べる表現」などと整理されていて分かりやすい。文法なども初級レベルから紹介されているので初めて韓国語を学ぶ人でも分かりやすいであろう。また、推し活についてのコラムや韓国の文化についてのコラムも合間に入っているため、韓国の推し活事情なども知ることができて興味をそられる。また記載されている文章も実生活でも使える表現が多いので、推し活だけではなく日常会話でも実践して使える。ただ、ハングルが読めないような全くの初級者には少し難しく感じる教材かもしれない。ある程度ハングルにカタカナ文字で読み方がふってあるが、ふってないところもあるので難しく感じるであろう。

2冊目は、「推し活に必ず役立つびったり韓国語」¹⁴という教材である。「推し活」に必要な単語やフレーズが整理されている。チャプター1はK-POP、チャプター2は推し活、チャプター3はテレビ・動画、チャプター4はSNS・ネット、チャプター5は観光、チャプター6は日常、チャプター7は韓国語の基本とそれぞれ分かれている。所々にメモがあり、韓国の推し活の文化や韓国文化について説明書きが記載されている。単語とフレーズについて少しだけ説明書きはあるが、文法については詳しい説明・整理がなされていないので、きちんと韓国語を学びたい人には不向きである。文法など学ばず単語やフレーズだけをそのまま覚えて使いたいという人には実際に使える表現が多いので、そういう人には向いている教材である。

3冊目は、「世界が広がる推し活韓国語」¹⁵という教材である。推し活用の単語が整理されており、1つ1つ説明書きがされている。コラムが所々にある。また韓国に行った時に役立つフレーズや韓国語の基本文法、ハングル文字、発音なども整理されている。それに加えオタクたちの座談会というコーナーもあり面白い。

13 「推したい私の韓国語」イ・ダヒ ワニブックス 2022年

14 「推し活に必ず役立つびったり韓国語」宍戸奈美 KADOKAWA 2024年

15 「世界が広がる推し活韓国語」柳志英、南嘉英 Gakken 2023年

韓国ドラマやK-POPをテーマにした教材

Duolingoの韓国語を学習したきっかけについてのアンケートで「推しの言葉を理解したい」が1位であったが、2位は「韓国ドラマや映画をそのまま理解したい」であった。韓国ドラマやK-POPをテーマにした教材を比較していく。

1冊目は「K-POP・アイドル好きのための韓国語」¹⁶という教材である。初級レベルからスタートできるよう文法なども基本から学べるように設定してある。パート1では韓国語の基本、韓国語勉強の悩み相談室などあり、説明も丁寧にされており分かりやすい。パート2では名詞＋○○の文法、パート3では動詞・形容詞の基本文法と段階的に進められていく。パート4では気持ちを伝える表現で実際に日常会話で使われる表現が学習できる。パート5では動詞・形容詞の応用文法で少し難しい表現も学ぶことができる。そして最後にパート6で文章問題があり、実際に推し活などに使える表現などを学ぶことができる。段階的に少しずつ基本を学べるので全く韓国語を知らない初級レベルの学習者でも学びやすい。

2冊目は「ときめき韓国語入門 K-POP・ドラマ」¹⁷という教材である。まずはパート1で文字と発音を細かく学習することができる。説明もとても分かりやすい。パート2では文法のコツで韓国語の文法について説明されている。パート3では実践フレーズを学習することができ、文法の説明やキーフレーズ解説などあり、発音や単語について整理されている。それから実際に歌やドラマのフレーズで使われる単語を取り入れ練習しながら学ぶことができる。ドラマでは丁寧語よりため口が多いのでため口の表現を多く学ぶことができる。ため口の表現を学んだ後、丁寧語を学べるようになっている。よく耳にするセリフが取り上げられているので、学習者も聞いたことあるなど思いながら勉強することができるであろう。

3冊目は「歌で身につく韓国語」¹⁸という教材である。それぞれの章が1分の歌になっており、楽しく学べるよう工夫してある。1章ごとに単語や文法が整理されており、フレーズなど分かりやすく整理されている。日常をテーマにしているので実際に日常会話に使えるようなフレーズが多い。またメロディで覚えられるので楽しんで学習できる。

4冊目は「字幕なしで韓国ドラマが見られるようになる本」⁷という教材である。第1章では基本編でドラマに出てくる基本の単語とフレーズが整理されている。第2章では恋愛ドラマ編で恋愛ドラマに出てくる単語やフレーズが整理されている。第3章ではお仕事ドラマ編、第4章では学園ドラマ編、第5章では時代劇ドラマ編とジャンル別に整理されている。そして最後に実際のドラマに出てきた名シーンのフレーズを学ぶことができる。それぞれの章に実際に使用されたOSTのフレーズを学べるコーナーや韓国文化についてのコラムもあり面白い。韓国ドラマをよく見ている学習者は聞いたことのあるフレーズも載っているので楽しんで学習できるであろう。

16 「K-POP・アイドル好きのための韓国語」 ソンホ KADOKAWA 2021年

17 「ときめき韓国語入門 K-POP・ドラマ」 石田美智代 研究社 2020年

18 「歌で身につく韓国語」 小山明里 アスク 2022年

7 「字幕なしで韓国ドラマが見られるようになる本」 穴戸奈美 コスミック出版 2022年

日常会話をテーマにした教材

韓国語を学ぶ目的はそれぞれだが、推し活や韓国ドラマだけではなく、日常生活で使える韓国語を学びたいという学習者も多い。実際に韓国旅行をしたい、韓国に留学したいと韓国語を始める学習者のための教材も多く見られる。そのような教材も何冊か比較し、考察していく。

1冊目は「使える会話文で身につく―はじめましての韓国語」⁹という教材である。まず登場人物が設定されている。韓国語の基本であるハングル文字、文法など最初に学習できる。次に各章ごとに会話文があり、基本の文法からスタート。分かりやすく説明されており、練習問題もある。この教材でも推し活や実際韓国での生活で使える日常会話もある。特にMBTIや推し活、SNSなど現代の若い人たちの間で使われているような表現が多い。文化についてのメモもあり現地で使えそうなリアルな韓国語が学習できる。またコラムで文法について分かりやすく整理されている。

2冊目は「韓国語フレーズブック」¹⁰という教材である。基本的な文法や文字、発音からスタートし、よく使うフレーズを各章ごとに学習できる。ここでも推し活をテーマにした章がある。フレーズごとに説明があり、分かりやすい。最後にはそのフレーズをまとめた会話文もあり、実際どのように使うか理解できる。文化を紹介したコラムもあり、韓国について更に学ぶことができる。

3冊目は「なりきり韓国語会話 トレーニング」¹¹という教材である。この教材は実際に留学した設定で各章が構成されている。まず最初に基本的な文法の説明、発音について学習できるが、ハングルやある程度文法を学んだことがある学習者向けの説明である。その後、章ごとに会話文があり、まずはリスニング、音読/シャドーイング、ロールプレイと学習できるよう整理されている。その後に関連フレーズ、覚えておきたい文型、表現と単語、会話文の対訳があり、深く学ぶことができる。ハングルにはカタカナのルビがふっていないのでCDなどを聴きながらネイティブの発音を聞き取る必要がある。全く初級の学習者には少し難しいであろう。

4冊目は「すぐに使える韓国語 日常フレーズBOOK」¹²という教材である。基本的な文法、発音、文字からスタートし、定番フレーズ、旅行やグルメ、K-POPや推し活に使えるフレーズなど実際に使える日常会話文を学ぶことができる。フレーズごとに1つ1つ文化や単語やフレーズ、文法などについての説明が記載されているので更に深く学ぶことができる。

総合的考察

現代の文化的な流れを踏まえて構成された教材を中心に考察した。アップツーデイトな文化である推し活や韓国ドラマ、K-POPをテーマにした教材には基礎的な文法や発音などはもちろん、日常的に使える表現も多く含まれていた。また逆に日常会話をテーマにし

9 「使える会話文で身につく―はじめましての韓国語」 omol(オモ) 池田書店 2023年

10 「韓国語フレーズブック」 幡野泉、南嘉英、柳志英 新星出版社 2024年

11 「なりきり韓国語会話 トレーニング」 柳本大地 HANA 2022年

12 「すぐに使える韓国語 日常フレーズBOOK」 李恩周 高橋書店2023年

た教材には、推し活、韓国ドラマ、K-POPなどをテーマにした表現も含まれていて、学習者の学習したい趣向を捉えて作成されていることがよく分かった。

それぞれの教材を総合的に見て、推し活をテーマにした教材では「推したい私の韓国語」、韓国ドラマやK-POPをテーマにした教材では「字幕なしで韓国ドラマが見られるようになる本」、日常会話をテーマにした教材では「なりきり韓国語会話 トレーニング」がとてでも分かりやすく整理されており、それぞれ学習者が興味を持って学習に取り組むことができるであろう。

言語を学習する際に基礎を学んでおくことは非常に重要である。韓国語ではまずハングルを覚え、その次に発音、そして文法を段階的に学んでいくことが必要である。そのようにしっかり基礎から学ぶことにより応用も効くことになり、さらに世界が広がる。それに加え韓国の文化と一緒に学ぶことにより、言語により深みが出てくる。それは他の言語を学ぶ際も同様であると言えよう。特に「推したい私の韓国語」では文法、単語、フレーズを十分に学ぶことができ、初級者から学ぶことができる。現地で使えるフレーズがたくさん載っているため生きた韓国語を学ぶことができる。また実生活で使える表現に加え、推し活などのテーマが入っているため、楽しんで学ぶことができ、さらに学習効果が上がるであろう。また言語は時代の流れによって使う単語も変わってくる。その時代に合わせた単語や表現を学ぶ必要があるため、上で紹介した教材はよりリアルな現代の韓国語を学ぶことができるであろう。さらに「字幕なしで韓国ドラマが見られるようになる本」や「なりきり韓国語会話 トレーニング」のように一般的な文化、食文化や学生の文化などを取り入れると、学習者がより生きた韓国語を学ぶことができるだろう。

問題は、こうした市販の独学・趣味に沿った教材の場合、内容の面白さを追求すればするほど、語学の基礎（ハングル・発音・文法）が疎かになってしまい、また逆に、基礎をしっかりと教え込もうとすれば、内容（面白さ）が薄くなってしまう点である。これはアンビバレンツなもので、悩ましい問題ではあるが、上記3冊の特徴を、織り交ぜた教材を作ることにより、より実践的で魅力的な韓国語の教材を作れるのではないだろうか。

参考文献

- 2) 日本における韓国語教育の黎明－雨森芳洲の活動とその文化意識
 - ・ 染谷智幸・鄭炳説編『韓国の古典小説』ペリかん社、2008年
 - ・ 染谷智幸・崔官編『日本近世文学と朝鮮』（アジア遊学163）勉誠出版、2013年
 - ・ 鄭敬珍『交又する文人世界－朝鮮通信使と兼葭雅集図にみる東アジア近世』法政大学出版局、2020年
 - ・ 染谷智幸編、鄭敬珍他執筆『はじめに交流ありき－東アジアの文学と異文化交流』（東アジア文化講座第1巻）2021年
- 3) 教養・第二外国語としての韓国語授業における文化教育
 - ・ 陸心芬・金由那・白明学・金昭鎭『どんどん話そう！韓国語』、朝日出版社、2022年
 - ・ 李潤玉・酒匂康裕・須賀井義教・睦宗均・山田恭子『四訂版・韓国語の世界へ入門編』、朝日出版社、2024年
 - ・ 生越直樹・生越まり子・池玖京『改訂版 根と幹』、朝日出版社、2022年
 - ・ 金智賢『改訂版 教養韓国語 初級』、朝日出版社、2023年
 - ・ 金珍娥・野間秀樹・村田寛『はばたけ！韓国語ライト版1』、朝日出版社、2022年

- ・金庚芬・丁仁京『チンチャ! チョアヘヨ!! 韓国語 1』, 朝日出版社, 2023年
- ・山崎玲美奈『キムチ 1 韓国語入門』, 朝日出版社, 2022年
- ・全相律・洪妍定・申知元「日本人韓国語学習者を対象とした会話教材の開発について」, 『グローバル・コミュニケーション研究』 13号, 神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所, 2024年
- ・ガンヒョンジュ (강현주)「海外在住韓国語初級学習者を対象とした韓国文化教育方案の研究 (해외 거주 한국어 초급 학습자 대상 한국 문화 교육 방안 연구)」, 『이중언어학』 (57), 이중언어학회, 2014年
- ・キムヨンマン (김영만)「ハイブリッド的思考と韓国文化教育の方向性 (하이브리드적 사고와 한국 문화 교육 방향)」, 『겨레어문학』 (42), 겨레어문학회, 2009年
- ・キムジョンウン (김정은)「韓国語教育における言語文化教育 (한국어 교육에서의 언어 문화 교육)」, 『이중언어학』 (26), 이중언어학회, 2004年
- ・チェジュヨル (최주열)「韓国文化教育への接近方法の研究 (한국 문화 교육 접근 방법 연구)」, 『언어와 문화』 (4), 한국언어문화교육학회, 2008年
- ・パクヨンミ (박영미)「韓国語文化教材の開発領域と文化教育モデルの開発 (한국어 문화 교재의 개발 영역과 문화 교육 모형의 개발)」, 『다문화와 평화』 7 (2), 다문화평화연구소, 2013年
- ・パクヨンスン (박영순)『韓国文化論』, 韓国文化社, 2002年
- ・チェジュヨル (최주열)「韓国文化教育への接近方法の研究 (한국 문화 교육 접근 방법 연구)」, 『언어와 문화』 (4), 한국언어문화교육학회, 2008年

4) 現行の韓国語教材分析から見えてくるもの

- ・稲川右樹「SNSアンケートを利用した日本人韓国語学習者の実態調査」帝塚山学院大学研究紀要, 第54巻 2019年
- ・Duolingo韓国語×推し活調査 2024年 9月29日
- ・金鉉哲「韓国語教育における日韓教材の現況と問題点 ―東北大学の展開朝鮮語テキスト開発のために―」東北大学高等教育開発推進センター 評論 2005年
- ・「韓国語セカイを生きる 韓国語セカイで生きる AI時代にことばではたらく12人」朝日出版社 2024年 p71-p88
- ・金菊熙「韓国内の韓国語教育としての文化教育の研究動向と日本の大学における韓国語教育の現状について ―松山大学の初習言語「韓国語」の事例を中心に―」松山大学 言語文化研究 第40巻 第1号 2020年
- ・方閔濟「일본 내 대학의 한국 대중문화 교육 방안 연구」日本韓国語教育学会 『韓国語教育研究』 (第12号) 研究論文 2022年

(追記)

なお、本稿を成すにあたって、筑波大学図書館に資料その他の使用・掲示についてご配慮を賜った。記して深謝もうしあげたい。(染谷智幸)

일본에서의 한국어 교육 재검토 - 문화적 측면에서의 접근

소메야 토모유키 · 정경진 · 하시모토 마유미

논문 요지

이른바 'K-culture'의 유행은 대학 교육현장 뿐만 아니라 일반 한국어 교육에도 큰 영향을 주고 있다. 해마다 대학에서 교양 제 2 외국어로 한국어를 배우려는 학생들이 증가하고 있으며 일반 사회에서도 한국어를 배우려는 사람들이 늘고 있다.

이들 중 상당수는 K-pop, 드라마, 영화, 음식 등 다양한 한국 문화에 관심을 갖고 있는데 언어를 통해 한국을 더 가깝게 느끼고자 하는 목표를 갖고 있다. 한국어 학습은 단순한 언어 습득에 그치지 않고 한국 문화에 대한 이해를 높이는 귀중한 기회이기도 하다. 언어와 문화는 분리될 수 없으며, 한국어 학습에 있어서 문화교육이 필요하다는 점에 대해서는 이미 여러 차례 논의되었다. 그럼에도 불구하고 실제 수업 현장이나 한국어 교재에서 한국 문화를 충분히 소개하고 교수하는 것은 쉽지 않다. 그 이유로는 한국어 수업과 교재 내용이 언어학습 중심이다 보니 문화적 배경이나 역사에 대해 접할 수 있는 시간이나 지면을 확보하기가 어렵기 때문이다. 그럼에도 한국어 교육은 한국 문화에 대한 이해를 높일 수 있는 귀중한 기회라는 점은 부정할 수 없을 것이다.

본고에서는 대학 수업에서 사용하는 한국어 교육 교재를 비롯해 일반적으로 판매되고 있는 독학용, 취미용 교재(이들 교재 역시 대학 부교재로 사용되는 경우가 있다)를 중심으로 이들 교재가 한국 문화에 어떻게 다루고 있는지를 조사하고 문제점을 검증하고자 하였다.

본고는 소메야 토모유키, 정경진, 하시모토 마유미의 공동집필로 진행하였으며 본 주제에 대한 각각의 내용을 정리하면 다음과 같다.

소메야 토모유키는, 한국어 교육의 역사를 거슬러 올라가 에도 시대의 유학자·아메노모리 호슈(雨森芳洲)에 의한 통사(통역자) 전용 교재 개척에 대해 살펴보았다. 아메노모리 호슈가 살았던 당시부터 이미 어학 교육 속에 문화를 어떻게 포함시킬지에 대해 논의가 있었던 점을 지적한 후 아메노모리 호슈의 어학 교육 방침에 대해 검증하였다.

정경진은 초등학교 중학교 고등학교 대학이라는 어학교육 현장 중 특히 대학에서의 한국어 교육이 진행되는 과정에서 어떤 교재가 채택되는지, 또한 그러한 교재들이 한국 문화를 어떻게 다루고 있는지에 대해 논하였다.

하시모토 마유미는 일반적으로 판매되고 있는 한국어 교재(시판 중인 독학용·취미용 등)에 주목하여 현재 가장 주목받는 주제(예를 들면 「오시카즈(押し活·팬활동)」 「한국 드라마」 「K-POP」)를 중심으로 한국어 교재의 최신 경향에 대해 검증하였다.